

文化・環境・教育

文化力による未来づくり

目指すべき将来像

【20年後にありたい姿（長期ビジョン）】

- 府民誰もが、多様な文化に親しみ、参加し、創造することができる環境に恵まれ、自らの文化的表現力を高めています。
- 芸術や古典芸能、生活文化、文化財など多様な文化と、観光、産業、教育など幅広い分野が相互に結びつき、活用されることで、その魅力と価値が高まり、府内の各地域の活性化や経済の好循環が生み出されています。
- 伝統文化から現代アート、先端技術など、様々な分野で活動する人が京都を舞台に交流・協働し、新たな文化が生み出され、その文化が世界中に広まっています。

【4年後に到達させたい状態（中期計画）】

- 様々な文化に関わる人が増え、裾野が広がっています。
- 各地域特有の文化（財）や行催事が守られ、次代に受け継がれていく環境が整っています。
- 住民が地域の文化に誇りを持つとともに、専門人材による支援のもとで、文化を活用したまちづくりが進んでいます。
- 国際的なアート市場形成に向けた府の取組みが定着し、市場が拡大するとともに、アートを志す人やアートの購入を目的に京都を訪れる人が、日本だけでなく世界中から集まってきました。
- 京都の文化と先端科学や産業など、府内各地で世代・分野を超えた多種多様な交流が生まれています。
- 世界的なスポーツイベントが集中する「ゴールデン・スポーツイヤーズ」等を契機として、京都の文化発信が進んでいます。

- 「文化芸術基本法」が改正され、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各種関連分野に広げるとともに、文化芸術が生み出す様々な力を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することとされています。
- 京都府内の国宝（233件）・重要文化財（2,180件）の件数は、いずれも全国2位となっています。
- 暫定登録文化財制度（平成30年11月現在1,149件登録済み）を創設し、全国に先駆けて、新たな文化財保存の仕組みを創っています。
- 世帯構成の変化等により豊かな生活文化や伝統文化などの継承の危機を迎えています。
会員の高齢化や後継者不足、経費の確保の難しさから、一部の行事は活動が休止
- 伝統産業を担う職人が減少し、道具や原材料の確保も困難になっています。
伝統産業を支える職人は年々減少し、西陣織の職人数（2,674人）はピークの1割に（平成26年）
- 地域の文化資源を観光やまちづくりと連携させた取組みが、大きな経済効果を創出しています。
(文化資源を活用したイベント等の経済効果（京都府推計）)
◎源氏物語千年紀事業（平成20年）
全国で3,777件の事業、参加者数1,030万人、経済効果推計1,087億円
◎琳派400年記念事業（平成26年～27年）
観客155万人、経済効果127億円
- 京都は芸術系大学が多く、文化芸術を支える人材も多くあり、その人材を活かしていく必要があります。
(京都府関係の芸術系大学の状況（京都府文化芸術課調べ）)
◎京都には多くの芸術系大学があり、約4,000人が毎年卒業
(卒業・修了生等の進路について（平成28年度 京都市立芸術大学の例）)
◎大学卒業後、芸術活動を継続している人は約6%、大学院修了後は約27%に止まる

現状・課題

- 世界のアート市場規模（2017年）は、約6兆7,500億円。
日本は2,437億円と小規模。
- 日本文化への関心の高まり等により、外国人観光客が急激に増加しています。
(訪日外国人客数及び旅行消費額（JNTO日本政府観光局）)
◎訪日外国人客は2012年から2017年までの5年間で3.4倍、2,800万人に
旅行消費額は約4.1倍、4兆4,161億円に
◎京都府の外国人宿泊客数は325万人（2016年）

- 世代を超えた切れ目のない文化体験を充実させるとともに、文化を担う人材、支える人材を育成します。
- 伝統文化・生活文化や文化財の保存、継承、活用を進めます。
- 府内各地で世代・分野を超えた多種多様な交流による文化創造に取り組みます。
- 地域における文化活動を振興するとともに、文化資源を活用した観光やまちづくりを進めます。
- アート市場の拡大や文化産業の振興を行います。
- 京都文化の国内外への発信や文化を通じた国際交流を進めます。
- 文化活動を支援するための専門人材等の確保や、文化活動拠点の整備を進めます。

対応方策を検討するに当たっての論点

- 次世代の文化体験の機会をどう拡大していくか。
- 人口減少が進む中で、伝統文化・生活文化や文化財を保存・継承し、さらなる活用を進めるにはどうすれば良いか。
- 新たな文化の創造に向けた先端技術と文化の融合をどう進めるか。
- 地域文化の振興と地域の活性化を進めるにはどうすれば良いか。
- 京都で多くのアーティストが活躍する基盤として、アート市場を形成するにはどうすれば良いか。

【上記の対応方策に連動して検討すべき数値目標について】

数値目標の候補	単位	現状：2017
芸術家等の派遣による、学校や地域の文化会館等における次世代文化体験	件	94
アートフェア等における売り上げ	万円	
文化産業における起業数	社	